

堀川ミュージアムの提案

堀川は、且つて“なごや”の生活・文化の中心であったが、水の汚れとともに堀川沿いの貴重な歴史・文化遺産も消えつつある。今、水の浄化と合わせて名古屋の貴重な歴史遺産を未来に引き継ぐためにも、その中心となる「堀川ミュージアム」が必要である。



堀川ミュージアムを上空から望む

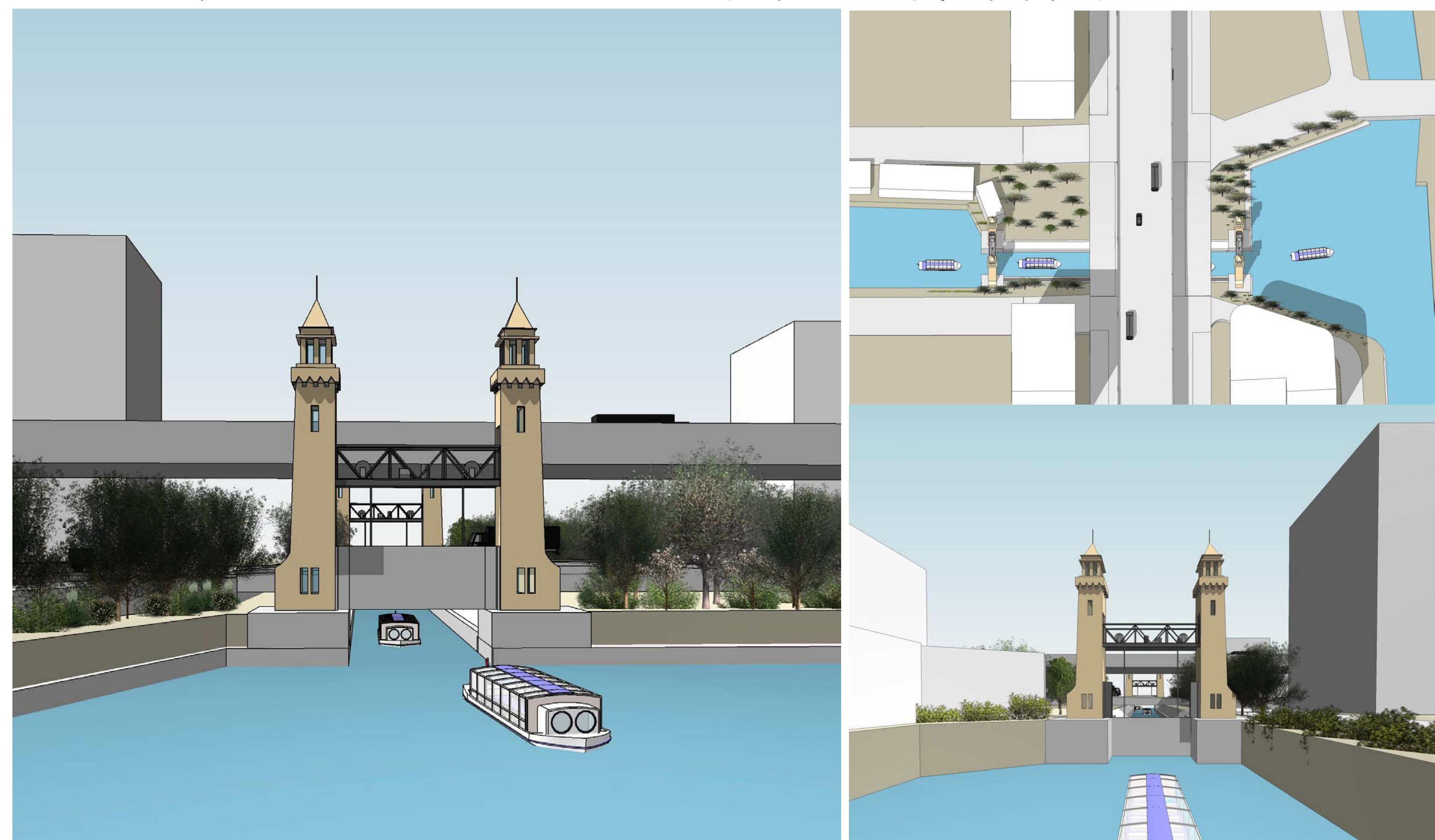
納屋橋船着場を望む



木で創られた堀川ミュージアムを納屋橋から望む

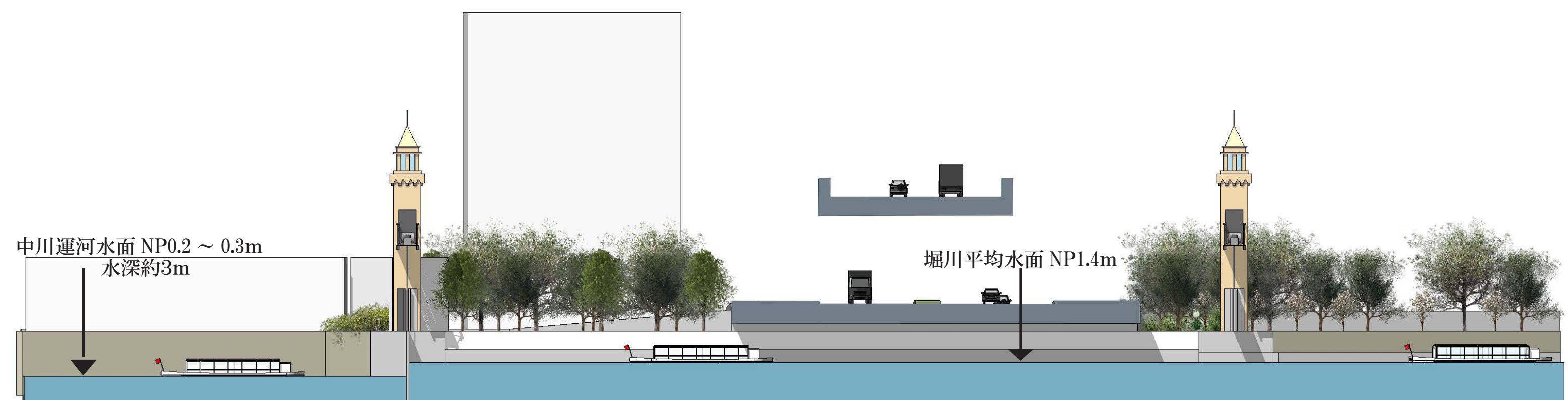
松重閘門の復元

堀川と中川運河を結び“なごや”の産業発展を支えていた松重閘門の機能を復元することで、中川運河の水上交通とリンクする新たな交通インフラが生まれ、後述の「フィールド・ミュージアム提案」の重要な役割を担う。

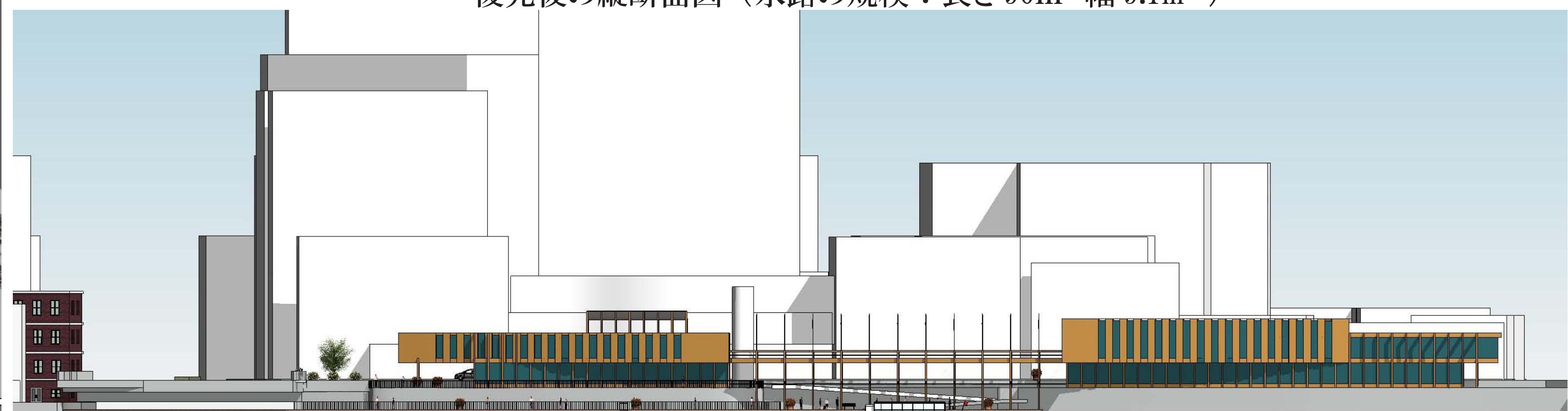


松重閘門復元後の堀川側のイメージ

中川運河側のイメージ



復元後の縦断面図（水路の規模：長さ90m 幅9.1m）



堀川から見たミュージアム全体像：2ブロックに分かれた施設を船着場上空のデッキにより接続

堀川の再生